第１章　ナビゲーションブックとは

１　ナビゲーションブックの概要

ナビゲーションブックは、受講者自身がプログラムでの体験等をもとに、自らの特徴やセールスポイント、障害特性、職業上の課題、事業所に配慮を依頼すること等を取りまとめて、自らの特徴等を事業主や支援機関に説明する際に活用するツールです。

発達障害の特徴の一つとして、職務遂行や職業生活を送る上で困り感を感じる部分や配慮が必要な点が見えづらい、わかりづらいということがあります。事業所にとっては、一見の印象や履歴書等から見る学歴や職歴からだけでは、採用を検討する、あるいは既に雇用している発達障害者の障害状況が具体的に想像し難い面があります。

発達障害の特性として一般的には「三つ組みの特性がある（社会性、コミュニケーション、想像力の三つの側面に独特な特徴がある）」「独特の感覚特性や注意特性がある者もいる」等の説明をしますが、これらの特性の中でも、できる部分、苦手な部分については一人ひとり多様で、現れ方は個々によって異なるという「多様性」について説明することが多くあります。

「何ができるのか、何が課題なのか、どのような配慮が必要なのか」一人ひとりの特性や状態像がわかりづらいということは、事業所にとっては採用への不安や適切な配慮を行う等の対応策がとれないなど、課題となることがあります。

一人ひとりの特性について、ナビゲーションブックを用いて事業所に伝えることは、事業所にとって雇用管理に役立つことにつながります。また、受講者にとってもナビゲーションブックの作成を通じて、自分自身の理解をより深めるきっかけを得ることや、その後の職場適応に役立つことにつながります。

また、平成 28 年 4 月から、障害者の雇用の促進等に関する法律の一部改正（平成 25 年法律第 46 号）に伴い、障害者が職場で働くにあたっての支障を改善するための措置を講じることが義務づけられます。この「合理的配慮の提供義務」にあたっては、障害者本人が、配慮に関する自分のニーズを伝え、申し出ることが必要になります。こうした流れの中、自分自身のセールスポイントや職業上の課題、自分自身で課題や支障の改善に向けて対処の工夫をしていること、あるいは試して確認した対処方法を整理し、事業所に説明できることが、今後ますます求められてくると思われます。

一方、支援者にとっては、本人の自己理解やニーズの整理に対する支援、また事業所への特性や配慮に関するニーズの伝達をサポートするという役割がますます求められます。

ナビゲーションブックはそのような支援にも役立つツールになると考えています。

２　ナビゲーションブックの基本的な考え方

ナビゲーションブックは、①受講者自身が主体的に作成する、②一度作成したら終わりではなくバージョンアップするものである、③固定化された枠にとらわれるものではない、という特徴があります。

①受講者自身が主体的に作成する

ナビゲーションブックは、体験とふり返りをとおして気づいたことをもとに、「本人の気づきや理解に基づいた内容で作成する」ということがポイントです。ナビゲーションブックを作成した時点において、受講者が納得している言葉、内容を整理して作成することで、障害特性等の「自己理解・気づき」にもつながります。このことは、受講者が事業所に「自分自身のニーズ」を伝えることを支援するという視点からも大事なポイントです。

支援者の役割は、「本人の気づきを促す、気づきを深める」ように支援することです。受講者自らが気づいた特徴に加え、アセスメントを通じて客観的に把握された特性について、適宜フィードバックやふり返り相談を活用し、受講者の理解を深めることができるように支援していくことが重要です。

②一度作成したら終わりではない、バージョンアップするものである

ナビゲーションブックは、受講者がプログラム受講後の就職活動や就職時、就職後において問題に直面した際、ナビゲーションブックの内容を更新し「安定した職業生活を送るための指針」として長期的に活用していくことが望まれます。必要な場面や活用する相手、タイミングに応じて、自分の新たな気づきに基づきバージョンアップをしていきます。

ナビゲーションブックは、採用された時点で完成、ゴールというものではありません。「できること」「対処の工夫の仕方」「会社に配慮を依頼したいこと」は、職場環境、担当する仕事の内容、経験の積み重ね等によっても変わることがあります。採用された後も、ふり返り、バージョンアップをすることにより、現状にあったナビゲーションブックとなります。

③固定化された枠にとらわれるものではない

受講者の特徴は一人ひとり異なるため、決して「記入様式（フォーム）」という固定化された枠にとらわれるものではありません。

また、上記②で述べたように、その時々の環境や状況、活用する相手やタイミングに応じて、受講者自身が活用しやすいよう適宜更新していくものですが、「記入様式」を限定すると柔軟に形を変え、更新することがしづらくなる場合があります。

以上の理由から、ナビゲーションブックの作成においては、受講者自身が気づいたこと、理解できたこと等を自分なりのやり方で、自分の言葉で取りまとめていくことを重視しています。

※支援の工夫の一つとして、記載項目の例示や書式例などを示す場合がありますが、その際には、あくまでイメージの参考とするものであり、例示した記載項目に関して記載を誘導するものではないことについて、受講者の理解を得ておくことが重要です。